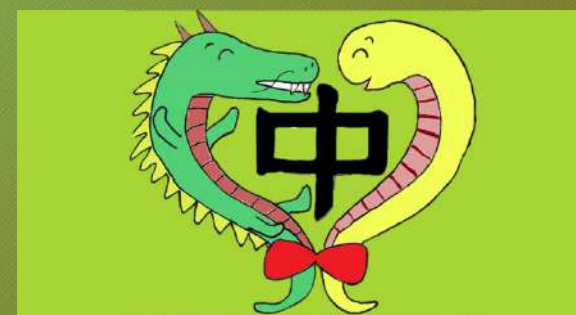


令和7年度ちばっ子の学び変革」推進事業  
研究状況報告書



市原市立辰巳台中学校

# 目次

1 本校の概要

2 生徒の実態

3 研究主題

4 今年度の取り組み

5 成果と課題

6 次年度の方角性

# 1. 本校の概要

- 昭和37年 開校
  - 主に3つの小学校より進学
  - 1学年 4学級
  - 2学年 4学級
  - 3学年 4学級
  - 特別支援 3学級
  - 令和7年度より「ちばっ子学びの变革」推進事業研究指定校  
(数学科)
- 全校生徒は422名  
市原市内では5番目の規模

## 2. 生徒の実態(全国学力状況調査より)

- 令和7年度調査において、国語、数学、理科の3教科とも県や国の平均正答率よりも低い結果となった。とりわけ数学においては、大きな課題が見られた。(令和6年度の調査でも同じような傾向が見られた。)
- 数学で学習したことの有用性は、県や国よりも高い。しかし、「好きか」、「分かるか」の質問では大きく下回っている。
- 無解答率は、数学の記述式の問題でも大きな課題が見られた。

## 2. 生徒の実態（職員アンケートより）

- 「読解力」の不足
- 「じっくり考える力」の不足
- 「忍耐強さ」の不足
- 「安易に解答を得ようとする」傾向

- 朗らかで明るい
- 学校に来ることが好き
- 仲間思いの生徒が多い
- 学習に落ち着いて取り組んでいる
- ボランティア活動等にも積極的に参加する

### 3. 研究主題

いきいきと自ら考え・  
気づき・多様な人々と  
協働する力の育成

### 3. 研究主題

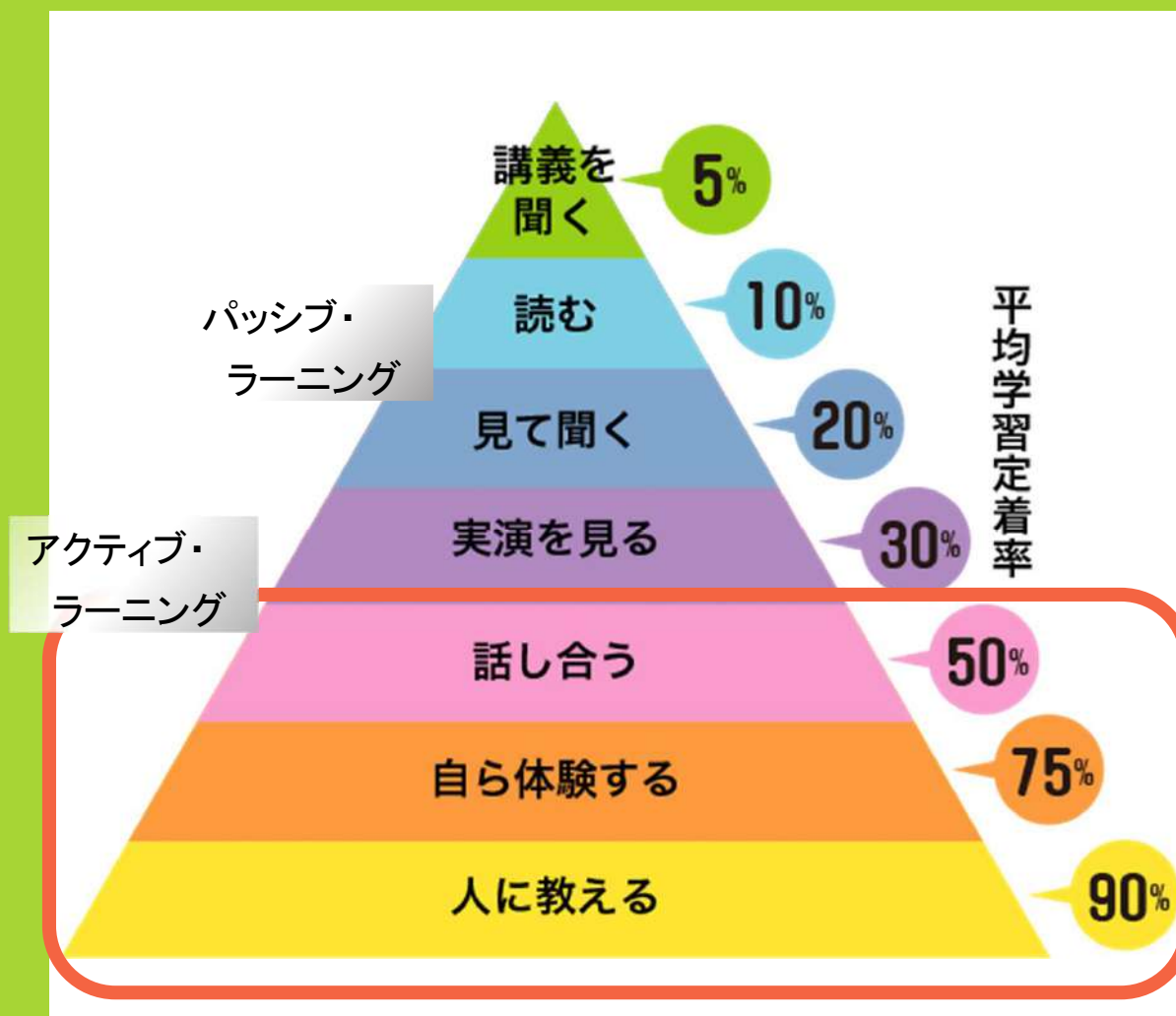
#### 仮説

- (1) 小集団での「学び合い活動」を授業に取り入れることで、「主体的・対話的で深い学び」のある授業につながり、「自ら課題を持ち、多様な人々と協働する力」が育成されるであろう。
- (2) ICT機器及びアプリケーションを適宜TPOに合わせて活用することにより思考力の向上が図れるであろう。

# ラーニング・ピラミッド

## 学力を向上させたい

- アクティブラーニングが効果的
- 効果的に進めるためには、基礎学力の向上が不可欠
- 個別最適な学び「T・T」「少人数指導」「ICTの活用」



(引用:アメリカ国立訓練研究所)

## 4. 今年度の取り組み

### いちはらリズム

	読書	勉強	睡眠
小学生	1時間	1時間	8時間
中学生	30分	2時間	7時間

市原市の取り組み

いちはらの学び定着生活リズム

## 4. 今年度の取り組み (読解力強化 朝読書の活用)

朝読書は落ち着いた一日の導入となる。

なんとなく朝読書



最大効果を得られるように  
職員の意識を変える

## 4. 今年度の取り組み (読解力強化 朝読書の活用)

### 朝読書の利点

- 気持ちを落ち着かせて一日の学校生活を送る導入。
- 身体は「静」、脳内は「動」の状態におき、瞑想のような状態となる。
- 想像力や発想力を働かせるため脳内が活性化し、授業に集中しやすくなる。
- 各生徒の登校時刻が違っていても、生徒たちの朝のスタート(学習のレディネス)をそろえる。

## 4. 今年度の取り組み (読解力強化 朝読書の活用)

- ・読書の習慣がつく  
⇒問題文を読むことを苦手とする生徒に効果をもたらす
- ・文字に慣れさせる  
⇒問題文を読むこと対し、抵抗を減少させる
- ・語彙力が高まる  
⇒問題文中の単語の意味を学習することに有効となる
- ・文章読解力の向上  
⇒問題文の主旨を読み取ることに効果をもたらす

## 4. 今年度の取り組み (個別最適な学び)

### T・T

- 全学年においてT・Tを実施
- 数学科に限らず学校全体で取り組んでいる

### ICTの活用

- タブレットを用いた授業展開
- 電子黒板の活用

## 4. 今年度の取り組み (OPPシートの活用)

【OPPA(One Page Portfolio Assessment)論(堀哲夫、2002)】  
は、学習者に「学習履歴」の要点を記録させ、学習全体を自己評価させるとともに、そこから得られた情報を基にして学習や授業を改善し、教育効果を高めるための理論や方法のこと。

## 4. 今年度の取り組み (OPPシートの活用)

学習課題	理解度 (○△×)	感想 (①何がわかったか②どのように分かったか③次に何を学習したいかを書こう)
一次関数のグラフはどのような特徴か	◎	一次関数のグラフは、直線になっている。 この中には比例の式もよく書かれている。 一次関数の式は $y = ax + b$ しかない!!
一次関数の $x$ の値、 $y$ の値の変化について学ぼう	😊	変化の割合は $\frac{y$ の増加量}{ $x$ の増加量} で求められる。 $y = ax + b$ の式だと $a$ の部分が変化の割合である。答えは 0 倍にしない!!

$x$ = 変数を扱(3)の4回変数を扱う	△	$\leq \geq$ などを使うことと方法が分かる。12.
グラフから一次関数の式を求め	λ	グラフからよめるのが難しい。

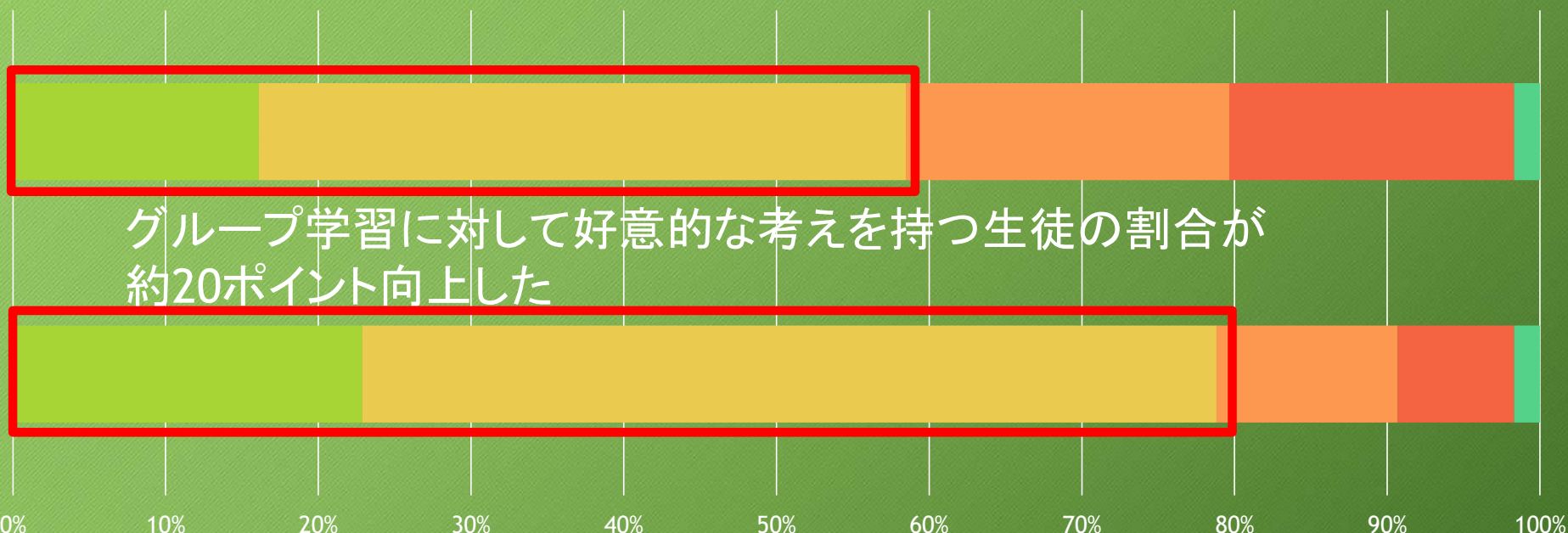
生徒の理解度等を毎時間確認することで、ボトムアップや個別指導の焦点化に活用している。

生徒が視点を持って感想を言語化することで、思考をすすめ、整理することにつながる。

## 5. 研究の成果・課題

成果 グループやペアで活動する方が学習の理解が進むと思う

5月



グループ学習に対して好意的な考えを持つ生徒の割合が約20ポイント向上した

■ 当てはまる ■ やや当てはまる ■ どちらともいえない ■ やや当てはまらない ■ 当てはまらない

## 5. 研究の成果・課題

### 成果

- 朝読書に対する意識が教員・生徒ともに向上した
- 協働的な学びの必要性や有用性を感じる生徒が増えた

### 課題

- ICT機器の使用頻度や有用な活用をより検証していく
- 少人数指導の活用を進める（習熟度別・等質）

## 6. 次年度の研究の方向性

- ①「教え合い」から「学び合い」への転換・質の向上
  - ・コミュニケーションの活性化
    - 分からないことを「分からない」と言い合える関係性、環境づくり
  - ・学習形態の工夫
    - 活動の目的に合わせたグルーピング等を行う
- ②教員が生徒の自律的な学びを支える「伴走者」・「コーディネーター」としての役割へ意識改善
- ③アウトプットする力の育成 →口頭、記述、ICT 方法の工夫